日本共産党
池田ファンクラブ・ニュース
あした天気に な～れ
222号
2020年4月
部内資料
発行責任者　太田　勍　（62-5727）
議員連絡先　薄井　孝彦（62-5093）
服部　久子（62-4357）
編集責任者　山本　久子（61-1066）

池田町の財政を考える（第４回）
どうする令和２年度予算

新型コロナ苦境に全国で自治体独自の対策広がる

新型コロナウイルスの感染拡大で、苦境に立たされる中小零細事業者や自営業者への保障を求める声が沸騰。しかし、安倍政権は全く聞く耳を持ちません。

一刻の猶予もならない事態に、御殿場市や富士吉田市のように独自に支援策を打ち出す自治体が増え始めています。共通しているのは、財政調整基金を取り崩して財源にあてるやり方です。もっともこのようなことは本来国が即座にやらなければならないことですが。

池田町には緊急時に対応出来るお金がない

自治体が即座の対応を求められる緊急時は感染症だけではありません。

もし、糸静線断層帯のどこかで大地震が起こったらどうするのか。これに新型コロナ感染症が重なったりすれば大変な事態になります。

第３回でくわしくお知らせしたように、池田町は最近の大型事業の積み重ねによって２０１８（H30）年から町の貯金をどんどん使い、今年度でついに底をつく見込みになってしまいました。これではとても緊急時に対応できません。これも前回指摘しました。

「未来の会」が予算に関する要望書を町に提出

町民有志でつくる「池田町の未来を考える会」（代表・安部誠）は、４月６日に「令和２年度予算に関する要望書」を提出しました。

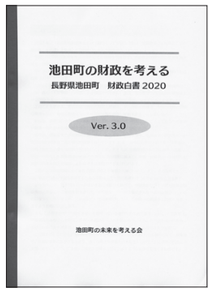
その一番の眼目は、財政調整基金の枯渇という事態を避けるために、町長選挙前につくられた骨格予算を再検討し、最低でも三億円の基金を残すことです。

さらに、新型コロナウイルス感染症への自治体としての対応をきちんと行うことなども求めています。

「未来の会」が「財政白書２０２０」を発表

ふつう池田町の財政問題を日頃の話題にするなんてことはありませんね。

でも、よく考えてみれば、私たちの地域生活は私たち自身が納める税金で成り立っており、私たちのくらしの根幹は町の財政でつくられているのです。



「池田町の未来を考える会」は、この４月池田町の財政白書を発行し、その中でくわしく町の財政の状況や問題点を明らかにしました。

内容はやや専門的になり、詳細なデータ満載ですから、必ずしも読みやすいものではありませんが、問題点などは整理されており、池田町の財政を知る上では大変役に立つ冊子です。

町の財政が大きな問題を抱えている現在、ファンクラブの皆さんも、手に取ってご覧になることを是非お勧めします。

先にふれた町への予算要望書はこの冊子の巻末に収録されています。

なお、写真はこの冊子についての新聞記事です。

大糸タイムス　2020年4月18日（土）

住民が池田町の財政分析
「未来を考える会」白書にまとめ配布

住民有志でつくる「池田町の未来を考える会」は、町の財政状況を分析した「財政白書2020」を発行した。住民に税金の使われ方への関心を持ってもらい、町づくりを考える参考にしてもらおうと作成。1冊500円で配布する他、図書館などへの寄贈も考えている。

白書はA4判76ページ。町の歳入・歳出の推移や財政健全化の指標などを表と解説でまとめた。過疎債を含む財政状況を分かりやすく示そうと、町の"貯金"である財政調整基金の推移や、予算・人口規模が同じ松川村との比較なども盛り込んだ。

考える会は前身の団体から12・16年版と作成を続け今回が第3弾。町民の町政に対する関心が高まる町長選挙に合わせ、4年に1度発行してきた。

今回は12年版から作成に携わる村端浩さん（74）＝渡沢＝が中心となり編集した。国が出す「決算カード」を基本資料に、最新のデータを反映させた

町の財政をまとめた財政白書

財政白書の発行を紹介した大糸タイムス４月18日付

「財政白書」のお申し込みは左記まで　一冊五〇〇円
未来の会事務局　〇八〇（四六八七）四〇〇二　曽根原

新型コロナウイルス緊急事態宣言
休業要請と補償は一体でなくては！

共同通信が実施した全国世論調査によると、新型コロナウイルス特措法に基づく緊急事態宣言を受け、休業要請に応じた企業や店舗の損失を国が「補償すべきだ」の回答は82％に達しています。しかし安倍首相は接客を伴う飲食店の利用自粛を要請しますが、店舗への補償は拒否しています。

緊急事態宣言発令は75％が評価していますが、80％が遅すぎたとしています。

飲食店の人は「休業したら固定費、家賃、人件費もあり食べられなくなる。補償しないと雇用も守れないし、感染も止まらない。取り返しのつかないことになる」と訴えています。イギリスでは休業補償は8割だそうです。

日本共産党の志位委員長は16日、国会内で記者会見し「感染爆発、医療崩壊を止める緊急提案―外出自粛・休業要請と一体の補償、検査体制強化と医療現場への本格的財政支援を」を発表しました。安倍政権の新型コロナ対策補正予算への提案です。

休校で子ども達は！

池田・会染小、高瀬中は20日に入学式がありました。

当初6日の予定が延期され、ようやくこれからと思っていたところ、また22日から5月6日までの休校となりました。全国に非常事態宣言が出たことにより決まったようです。児童クラブ・センターは継続するとのことです。

休み中は高学年、中学生はスマホ・ゲームに熱中の毎日だと殆どの親たちは嘆いています。

「時間を決めて」とよく言われますがなかなか難しいことです。

怒っても一時的にすぎないので、操作中の姿勢や休憩の取り方を約束させたらどうでしょうか。30分間で5分止めて屋内でも離れたところを見る。器具から40㎝離すなど。そして将来の目の傷害についてもよく話し合いをするとよいと思います。

また休み中は子どもたちも食事の用意や片づけなど自主性が求められますが、親もまたあらゆる支援に努力しています。

松川村では子育て世代に臨時給付金として18歳以下一人2万円を支給することが21日に報道されました。

5月1日に振り込まれるというから早いです。経済支援で商工業者とあわせ6千万円給付には驚きです。

文芸欄
俳句

父の笑み　花らんまんの　親子連れ　加奈子
掻き揚げの　色鮮やかよ　春人参　幸代
下萌えの　名も無き草の　底力　美ちこ

コラム 有明

朝ドラの「エール」がおもしろい。まだ始まったばかりだが、やはり音楽が我々の日常に密着しているからだと思う。スポーツの行進曲や多くの球団歌、高齢者に馴染みの「高原列車が行く」「長崎の鐘」など懐かしい数多くの作曲者である有名な古関裕而の少年時代から青年期の希望や挫折が見どころだ▼音楽は想像力を広げてくれるから楽しい。今はコロナでコンサートなど聞くこともできず気持ちも落ち込んでいる毎日だが、一日も早く生演奏が聞かれる日を待ちたい▼一方、自粛ムードとは不思議なもので、外では大声も出せなければお店からは音楽も聞こえてこない。注意喚起ばかりで気持ちにゆとりがなくなるのが怖い気がする。外出制限といえども買い物は必至で店内は大勢が動いているので気を使う▼今は一回手に取った食品は戻すことができずカゴに入れている。とにかくしばらくの間は自分なりに努力と工夫をするしかない。風評被害のようなものが起きないよう意識していきたい。